

ICT活用していますか？

～教員のICT活用能力を伸ばすために～【総合教育センター】



出典：文部科学省「H25年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」

文部科学省が9月に発表した『平成25年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査』結果（*表1参照）によると、本県の教員、特に小学校と高等学校の教員のICT活用指導力は、各調査項目で全国平均を大きく下回り、全国順位が軒並み40位台と大変深刻な状況にあります。

今、私たちの住む社会は、あらゆる分野で様々なICTを駆使することでより快適で効率的なものになっています。現代の子どもたちは、生まれた時からICTに囲まれて育っていると言っても過言ではありません。抵抗感を持たずに子どもたち以上にICTを使いこなせる大人は多くないと思います。

特に教育現場では今でもICTに関する根強い抵抗感があるのではないのでしょうか。

「教育は人と人との関わりの中で行われるべきだ。機械に頼ると人間同士の触れ合いが希薄になる。」このような考えをお持ちの方も多いかと思います。

一方で、ICT機器の安易な使用により、機械を使うことが目的となってしまっている事例もあるようです。ICTを導入するだけで子どもたちの学力が伸びるわけではありません。指導する先生方が道具としていかに上手く活用できるかが重要であり、本県では今、この「活用能力」が求められています。

このような状況の中、本県教員の研修機関である県総合教育センター（塩尻市）では、本年度の教員研修全271講座の内、およそ2割にあたる58講座をICT関連研修として実施しており、教員のICT活用能力の底上げを図っています。

今回は、実際に開催された研修講座『理科ねっとわーく入門 ～使いこなそうタブレット端末～』の様も含めて、センターのICT関連研修の取組状況について取材してきましたので報告します。

●研修講座「理科ねっとわーく入門」について

➤ 「理科ねっとわーく」とは

独立行政法人 科学技術振興機構が提供する理科教育用デジタル教材を集めたWebサイトです。子どもたちの興味や関心を引くコンテンツ（情報）が自由に利用できるため、授業でうまく活用することで子どもたちの理解も深まりそうです。

URL : <http://www.rikanet.jst.go.jp/>

【表1】 文部科学省：H25学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果 「教員のICT活用指導力」から

		全国平均	長野県	順位
教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	小学校	81.9	78.5	40
	中学校	78.6	81.0	18
	高等学校	81.9	74.4	44
授業中にICTを活用して指導する能力	小学校	72.3	65.1	43
	中学校	65.2	67.5	19
	高等学校	68.6	54.5	45
児童のICT活用を指導する能力	小学校	68.0	61.2	42
	中学校	58.9	62.7	15
	高等学校	65.9	55.4	41
情報モラルなどを指導する能力	小学校	79.6	71.4	46
	中学校	72.8	72.3	25
	高等学校	76.5	65.1	46
校務にICTを活用する能力	小学校	77.3	74.4	34
	中学校	75.0	77.2	19
	高等学校	80.3	73.0	43
上記各項目に関する研修の受講割合	小学校	38.5	46.6	10
	中学校	27.9	21.1	30
	高等学校	18.8	6.3	44



➤ 参加者

県内の小学校と特別支援学校の先生を対象に定員 12名の募集に対し、定員を超える希望があり小学校から理科専科の先生を中心に18名、特別支援学校から5名の計23名が参加されていました。

普段から「理科ねっとわーく」を授業で活用されている方もいれば、情報機器はほとんど扱えないといった方まで幅広く参加していましたが、どなたも目を輝かせながら「これは授業に使えるぞ」、「これは解りやすいな」といった調子で取り組んでいる姿が印象的でした。



➤ 講師

「理科ねっとわーく」を提供している科学技術振興機構 理数学習推進部から教員支援グループの3名が講師としてお見えになっていました。機構に出向されている現職教員、教員OB、技術者といった顔ぶれで、今年度は要望があれば全国各地で講義を行っているそうです。

➤ 研修内容

「理科ねっとわーく」の教材や素材を活用してタブレットPCを用いた授業づくりを体験することで授業での活用を図ることを研修の狙いとしていることから、タブレットPCを利用して「理科ねっとわーく」の教材・素材を確認することから始まりました。その後、それらの情報をタブレットPCで活用して授業プランをつくり、最後に作成したプランの発表が行われました。実習中心の講座で経験豊富な講師によるサポートのもと、有意義な研修が行われていると感じました。



研修で使用したPC
タブレットにもノートにもなる
2in1のハイブリッドタイプです

●総合教育センターのICT関連研修について

センターでは、県内の公立学校から派遣された32名の研修担当主事が教員研修の企画・実施に携わっているそうです。本県の教員のICT活用指導力は、残念ながら全国的にみて下位に位置している状況ですが、各学校で機器整備が進み、研修を通じて活用の有意性が理解されれば向上するとの分析もあり、意欲的に研修機会の提供に努めているようです。今年度の年間研修講座案内から、受講者が実際にICTに触れられる研修にマークをつけるようにして希望者がわかりやすいような工夫もしています。

➤ 研修の目的・狙い

基本的な方向性として、従来までの「一斉指導による学び」に加え、「個別学習」や「協働的な学び」の推進に対応できるように企画しており、ICT教育の裾野を広げるために身近な機器を利用した研修講座を充実させているそうです。一方で、最先端の機器による高度な活用法を内容とした研修も提供されていますので、対象者のレベルに応じて幅広く企画されているようです。

今までICTが活用されていなかった場面（活動）で、ICTを利用すれば同等以上の学習効果が得られる可能性があるということを知ってもらうことを共通目的と考えているとのことでした。

➤ 参加者の反応

勤務校にICT機器が整備されている方は、すぐに活用できることもあり、大変意欲的に取り組んでいるそうです。環境が整っていない方にもデジカメ・ビデオカメラなど身近な機器を用いたICT活用例が紹介されていることから、「できることから始められそうだ」といった声が多いそうです。

➤ センターの所有機器

今年の1月に導入したばかりのタブレットPC・電子黒板をはじめ、ノートPC・プロジェクター・実物投影機などの機器を1講座20名程度の参加者が同時に利用できるように数を揃えている他、ICT活用教育支援ソフト「SKYMENU」も導入しているため、授業においてより具体的に活用する方法も体験できます。

➤ 今後の方向性

文部科学省の定める「教育の情報化に関する手引」、「教育の情報化ビジョン」及び第二次長野県教育振興基本計画に則り、「教員のICTの活用」、「児童生徒によるICTの活用」、「校務の情報化」に関する研修講座の更なる充実を図っていきたいと意欲的なお答えをいただきました。

学校に対する機器整備が徐々に進んでいることもあり、単なる機器の操作研修から教科ごとの授業での具体的な活用方法へ内容を深化させていく必要があると考えているようで、今後の取り組みに益々期待したいと思います。

●今回の取材を通して・・・

ICT教育というと兎角、タブレットPCや電子黒板など機器整備に目が向いてしまい、お金がかかることだから進まないのは仕方ないことだと諦めに近い気持ちもありましたが、必ずしも最先端の機器を利用しなければICT教育に取り組みないわけではないことに気づかされ、私自身も目から鱗が落ちる思いでした。

身近な機器の効果的な活用法に気づいていない、もっと厳しい言い方をすれば、今までの授業スタイルで間に合ってきたのだから活用する気もないといった方もいる中で、教員のICT活用能力を底上げするには、まず、あるものを効果的に活用するだけでも質の高い授業ができるということに気付いてもらうことが大事であり、そのために必要なヒントを提供していくことが総合教育センターの重要な役割だと熱っぽく語る姿に頼もしさを感じました。

あとがき

いきなり高嶺の花の高級車を乗りこなそうとするのではなく、身近な大衆車から始めようという気持ちは大事なようです。ICTに抵抗感がある方は、及び腰にならずに身近な機器を授業に取り入れてみることから始めてみませんか？きっと培ってきた授業力を一層効果的に発揮できる大きな武器になるものと思います。是非、総合教育センターの研修講座をご活用ください！

(文責：教育総務課企画係 浦澤 仁)